



グリーンレター  
**Green Letter**

Green Column グリーンコラム

01 映画監督、大野世愛

02 まぼろしの高野小学校

**Vol.345**  
2026/05/01



前川貴行《マウンテンゴリラ》

**Photo** 今月の1枚

特別展開催中の動物写真家 前川貴行 [昭和 44 (1969) 年ー] 氏の作品は、ドキュメンタリー性が高く、野生動物の生き様を鮮明に捉えています。被写体への洞察力に加え、その優れた撮影技術で、生き物たちの圧倒的な存在感や唯一無二の造形的な美しさを、余すことなく伝えてくれます。眼差しが印象的な本作も、まさにその一つです。(早田真莉子)



## 01 Green Column グリーンコラム

# 映画監督、 大野世愛

写真／大野世愛・文／早田真莉子

去る3月、美幌町出身の若手映画監督、大野世愛<sup>おおのせなり</sup>〔平成12(2000)年ー〕氏による自主制作短編映画『空想に耽<sup>ふけ</sup>りたいの』〔令和5(2023)年制作／30分〕が、監督の実家「LIFE IN BIHORO」にて上映されました。監督は東京都在住ですが、本作は美幌町や大空町にて撮影され、本町出身・在住の役者が多く出演しています。本コラム掲載写真も、LIFE IN BIHORO 内で撮影したワンシーンです。映画の詳細をここで語ることはできませんが、空想と現実の狭間で揺れる二人の少女の友情を描いた、切なくも爽やかな作品です。町内の見慣れた風景が、監督ならではの視点で切り取られていて、町の魅力を再発見できる映画でもあります。

大野氏は「第45回ぴあフィルムフェスティバル2023」にて応募数557作品のうちから、監督2本目となる

『ちょっと吐くね』〔令和4(2022)年制作／20分〕が入選。現在は、東京と北海道の二拠点で制作を続けており、今年2月にも、新作『凍<sup>しほ</sup>れる燃える』撮影のため女満別空港に降り立ちました。氏は2作続けてオホーツクを舞台に設定した理由として、「オホーツクには豊かな芸術的資源がある一方、その価値を認識する人が少ない」現状を挙げ、この地で制作することで、「将来、自主映画制作が地域の個性(文化)として根付き、次世代の子どもたちが『生活の中に芸術がある』と当たり前と感じられる未来を目指している」〔令和8(2026年3月インタビュー)〕と熱く語っています。

さらに大野氏は、映画制作に必要な知識や技術の教育普及にも関心を寄せています。当館でもぜひそうした機会を設けたいと考えていますので、監督の次回作と併せてご期待ください。

## まぼろしの 高野小学校

写真／美幌博物館収蔵・文／八重柏誠



博物館の収蔵庫には、古い写真が未整理のまま、たくさんの段ボールに詰められています。時間を見つけてはコツコツと整理を進めるなかで、古い学校の写真が1枚出てきました。余白に「高野校」と書かれていたことから、高野小学校の写真だと判明しました。今回見つかった写真は校舎に加えて運動場もしっかりと収められており、非常に貴重な資料です。

高野小学校は、昭和12（1937）年12月に女満別村の学校として開校しました。当時、高野地区は女満別村に含まれていましたが、住民たちは美幌町への編入を望んでいました。生産した農産物を遠くの女満別市街地まで運ばねばならず、代金の精算もそこまで行かなければならない不便さを感じていたためです。「遠くの女満別より、近くの美幌へ」、そう願った住民たちは両役場へ編入の陳情を行いました

が、太平洋戦争の激化により話し合いは一時中断を余儀なくされました。ようやく高野地区が美幌町に編入されたのは、終戦後の昭和21（1946）年9月30日のこと。翌日には高野小学校も美幌町の小学校となりました。

高野小学校のような「へき地校」は、市街地から離れた通学困難な子どもたちのために、かつて町内に13校設置されていました。昭和27（1952）年に国道39号線が高野地区の中央を通るルートで開通すると、交通の便が飛躍的に向上し、市街地の学校へ通うことが可能になりました。高野小学校は昭和39（1964）年、その役目を終え、閉校しました。これは美幌町における「へき地校」閉校の先駆けともいえる出来事でした。

開校から27年で閉校となった高野小学校。その跡地に痕跡はなにも残されていません。

## Exhibition 展示

### 特別展「生き物たちの地球」

～11月23日(日)

## Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

### 春のこどもの日みどりの村まつり

5/5(火) 9:30～13:00(無料開館は17:00まで)

美幌博物館・無料

### プチ工房「型染めコースター」

5/15(金)、16(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品  
ができ次第終了

美幌博物館1階 講座室・400円

講師/早田真莉子(美幌博物館)

対象/どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館に電話で申込み。各日50名で締切。

### 博物館講座(自然編)「アイヌ文化に生きる!植物を観察しよう」

5/23(土) 10:00～12:00

美幌町内(集合解散は美幌博物館)・200円

講師/内田祐一氏(国立アイヌ民族博物館)、城坂結実(美幌博物館)

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館に電話で申込み。20名で締切。

### 博物館講座(自然編)「写真を撮る・観る・楽しむ」

5/30(土) 10:00～11:30

美幌博物館・無料

講師/関次和子氏([公財]東京都歴史文化財団)

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館に電話で申込み。50名で締切。

### 博物館講座(芸術編)「直刻銅版画をやってみよう」

6/6(土) 9:30～15:00

美幌博物館・500円

講師/清水敦氏(銅版画家)

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館に電話で申込み。12名で締切。



## Tweet つぶやき

春は別れと出逢いの季節。先日、娘の中学校入学式に行ってきました。クラスの子はほぼ同じ小学校出身。別の小学校出身の子もいましたが、よく見ると同じ幼稚園に通っていた子でした。娘にとって新しい出逢いは、先生くらいだったかもしれません。(八重柏誠)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

